

## カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社日本コンサルタントグループ

26-22-12-037-066

A. バックオフィス	037 企業価値を上げるための財務管理
財務管理	

コースのねらい	財務の概念と財務諸表の構造を知り、コスト、資金管理、財務分析の手法を理解することで、企業価値を上げるための財務管理に関する知識を習得する。
---------	-----------------------------------------------------------------------

	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)	日 程	
					月 日	時刻
講 義 内 容	1	財務の概念と財務諸表	(1)財務知識の重要性 財務知識を学ぶ必要性について、事業的な観点と自身のスキルアップの両面から理解します。また、事業活動の財務データの表裏一体の関係性について学び、講義に対する動機づけと今後の財務知識の活用の意欲を喚起します。 (2)財務諸表の基本構造 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本的な構造、用語、知識をひとつひとつ解説し、基礎を学びます。 【演習あり】	1.0	令和8年 12月2日(水)	9:30～16:30  昼休憩 12:00～13:00
	2	コストと資金管理	(1) 資金管理の重要性 財務上の数値と非資金費用の関係性からや資金繰りに関する考え方を説明し、黒字倒産がおきる理由や、キャッシュフローの管理の重要性について理解します。 (2) コストの種類と損益分岐点 変動費・固定費の概念と、損益分岐点の考え方を理解します。損益分岐点分析を学ぶことで、目標売上高設定や、費用構成、利益確保のための改善課題を検討する視点や手法を演習を通じて理解します。 【演習あり】	2.5		
	3	財務分析と財務計画	(1)財務分析の基本 PL・BSを活用し、財務面から経営状態を分析する手法を体系的に理解し、演習を通じて実践します。収益性、安全性、流動性、効率性などの分析手法について、考え方、計算方法、着眼点、判断基準を理解します。 (2)財務分析演習 数社のモデル企業のIRから財務分析を行い、違いから経営状況や長所・短所などを分析し、財務分析の活用方法について理解します。 【演習あり】 (3)財務分析の応用演習 事例企業の財務諸表と与件から、数値と実際の事業状況を照らし合わせ、経営上・事業上・業務上の問題点とその改善策を理解します。これにより、数値と事業の関連性や、数値成果を上げるためにどのような取り組みが必要か財務視点からの理解を促します。 【演習あり】	2.5		
合計時間				6時間		

カリキュラム作成のポイント
<p>財務知識ということで、日々の業務と身近ではなく、抵抗感のある受講者の方も多いかと想定し、基本的な用語の説明から順を追って説明する展開にしています。また、ワークでは身近な飲食店などの事例をあげながら、わかりやすく能動的に学びを促していきます。損益分岐点分析や財務分析などの手法を活用し、収益性やコスト改善などの計画に結び付ける能力についても、演習を交えてお伝えいたします。訓練の進行においては、受講者の方と質疑応答・フォローなどを行いながら、臨機応変な対応を心がけてインタラクティブに研修を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●損益計算書・貸借対照表の理解確認ワーク(グループワーク・発表)                      財務諸表の基本となる損益計算書・貸借対照表の読み方を理解するために、簡易な企業の事例分析を行い、事業と財務諸表の関係性の理解と、財務諸表からの事業の問題点の発見の視点を養います。</li> <li>●損益分岐点分析と改善課題の検討(個人ワーク・グループワーク・発表)                      損益分岐点の考え方を活用し、固定費(総額人件費および自社の維持経費)を賄い、目標利益を達成するための売上高と利益目標の設定の考え方をお伝えします。その考え方に基づき、モデル企業のコストダウン計画を検討し、数値に依拠した課題検討のスキルを磨きます。</li> <li>●財務分析演習(個人ワーク・発表)                      上場企業のIR(機構として好ましくなければ、講師作成のモデル企業)などを活用し、収益性、安全性、効率性の分析手法を実践的に学びます。また分析結果を比較し、そこから推測される特徴や戦略、自社の強みと弱みを分析します。</li> <li>●財務分析の応用演習(グループワーク・発表)                      事例企業の財務諸表に対する財務分析と、与件文から経営上・事業上・業務上の問題点を分析し、改善方法を検討します。財務知識の活用方法の理解や、事業・業務における取り組みを数値におけるどのような目標・目的に対応して講じていくべきかを考えます。</li> </ul>